

組合からの“発信”

今回は、中村暢秀副理事長(株式会社紅中 代表取締役社長)からのメッセージです。特に“組合創立50周年記念”にあやかり、歴代理事長のエピソードを寄稿していただきました。

今年度引き続き副理事長に選任して頂きました中村です。1981年からの理事の古手でカビが生え始めております。本来、橋本前副理事長と共に退場すべきところなのですが、もう一期手伝えという浦本新理事長のたつての要請で就任させて頂いております。受けた限りは、手を抜くことなくしっかりお手伝いさせて頂きたく思いますのでよろしくお願い致します。

現役理事の最古参ということで、大変失礼なことですが、歴代の理事長をダイジェスト版でご紹介し、メッセージに代えさせて頂きます。当協同組合が設立登記されたのは、'62年、工場団地、住宅地共に造成が終わったのが'69年。設立組合員の工場が全部出揃ったのが'72年で、工場団地完成まで10年かかっています。

初代の理事長は、西野久雄さん、当時の大阪木材界の重鎮で、私にとって雲の上の人。'61年に設置された「美原木材街建設協議会」の会長として、また大阪木材工場団地協同組合の設立発起人代表として、協同組合の設立と工場団地建設のために東奔西走。'69年3月工場団地がほぼ完成するのを見届けるようにお亡くなりになった。現在の木材団地の礎を築かれたまさに名理事長。



初代 西野 久雄
自:昭和37年6月
至:昭和46年3月

2代目の橋本弘雄さんにはかわいがって貰うと共に色々な事を教えていただきました。この方は木材加工に力を入れられ、関東にも進出、橋本木材工業として手広く商いをされた方で、とてもスマートなジェントルマンでした。



第2代 橋本 弘雄
自:昭和46年3月
至:昭和47年5月

3代目は、設立組合員の各社が出揃い、協同組合も活発に活動し始めた時期で、浜武夫さんです。ツキ板加工の大阪工芸ベニヤ(株)の社長さんです。この方も温厚なジェントルマンでした。この頃の木材業界は、日本が高度成長真っ盛りの大変恵まれた環境の中にあり、業界のリーダーは皆さん、ジェントルマンで、お大尽、心も懐も豊かな方が多かったですね。今から思うととてもうらやましい時期です。



第3代 浜 武夫
自:昭和47年5月
至:昭和56年5月

設立10周年を祝い、課題も概ね解決し、少しマンネリ化しかけていた協同組合に新風を吹き込まれたのが、第4代理事長、中川藤一さん。新年互礼会を一新、また、理事に若手をどんどん登用し、色々な委員会を立ち上げ、活性化に努められました。この広報誌「あたらしき大地」を発刊されたのもこの理事長です。今、当協同組合がピチピチと元気なのはこのとき種蒔かれたものがしっかりと花開いているのです。中川理事長は、政治力もあり林野庁から補助金を導入、大規模木造建築の走りである「ウッドリム大阪」を建設。また喫茶施設「やすら木」が出来たのもその功績です。また、当時の田中林野庁長官を工場団地にお迎えしたのもこの時期です。「ウッドフェア」を開催し、12,000人を集めて美原地域に当協同組合の存在を知らしめたのもこの方です。その他、土地再売買予約の仮登記、転貸融資の規約化、集会場「木青会館」建設、「木栄会」の発足、簡易郵便局の開設、設立25周年記念として米国研修旅行の実施、このとき訪問したポートランドのワールドフォレストリーセンターとの提携交流など矢継ぎ早やの行動力には全員脱帽、顎出しながらついて行ったものです。中川さんは三重大学の講師もされており木材学者でもありました。私が尊敬し敬愛する大切な大先輩です。しかし、'88年志半ばでお亡くなりになり皆嘆き悲しんだのが昨日のように思い出されます。



第4代 中川 藤一
自:昭和56年5月
至:昭和63年9月

CONTENTS

- 組合からの“発信”……………P1~2
- 組合からの情報発信基地……………P3~4
- 木のある暮らし……………P5
- こだわりスポット……………P6
- みはらトピックス……………P7
- 堺歴史探訪……………P8
- 毎日の健康な暮らし……………P9
- コラム……………P10

そして、急遽引き継がれたのが第5代の成瀬良彦さんです。先代が立派過ぎましたから、非常にやりにくかったと思いますが、持ち前の人の良さ、温厚な中にも凛としたものを持った方でしたから、中川前理事長の熱き思いを次々に実現して行かれました。バブルの最盛期でもありましたので、木材乾燥工場の移転竣工など、後で問題になった案件もありますが、今も収益源の一つであるABCハウジング公園の誘致など功績大です。優良工場団地として時の通産大臣から表彰されたり、協同組合の中長期計画を策定し、組合員二世中心の会「飛翔会」が出来たのもこの時です。



第5代 成瀬 良彦
自:昭和63年9月
至:平成 7年5月

第6代の理事長は松本正剛さん。見かけはひょうひょうとした方で、ご飯はほとんど召し上がらず、口にするのはお米の汁ばかり、これでよく体がもつなと感心したものです。確かに痩せてはおられましたが、心身ともに強靱で、ご自分の会社経営同様、3期6年の間に、数ある事業の中良いものは残し、足を引っ張る事業は未練なく切り捨て、今日のような財務体質抜群の協同組合に変質させていかれました。誠に素晴らしい経営者でした。



第6代 松本 正剛
自:平成 7年5月
至:平成13年5月

第7代目が成瀬孝さん第5代理事長のお兄さんです。この方もユニークな方で、もの静かな立ち振るまいの中に一本筋を通す素晴らしい理事長さんです。この方の一番の功績は、その先見力から美原町との交流を深め、将来起こって来るであろう工場団地内のインフラ問題を町を巻き込んで解決するべく色々な手を打たれたことだと思います。美原町長、町役職者との定期的な交流を通し、急速に町役場が協同組合に身近なものとなって行き、後で起こって来る美原町と堺市の合併時大変有効に働きました。



第7代 成瀬 孝
自:平成13年5月
至:平成15年5月

こうやって振り返ってみると、美原の木材団地が、これまでの10人の素晴らしい理事長さん達の努力と強い意志により、新しい人、新しい考えが積極的に取り入れられて行った結果、今日の隆盛を見ているのは当然の結果だと思います。

設立当初の組合員企業は残念ながら大きく減少してしまいましたが、木材界の現状を見ればいた仕方ないと思います。木材を冠しながら、今後も元気な企業集団の集う工場団地として伸びてゆくのがあるべき姿でしょう。要は、組合員企業がこの協同組合に入りたいと思える魅力ある工場団地を造り続けて行くことが我々の幸せとなり、大阪ひいては日本の発展に貢献出来ることになると確信します。長々とお付き合いありがとうございました。

この次が、みなさんご承知の高島正一第8代理事長、口八丁手八丁、言うことも言うがやることもやる知行合一の人。ただし、ゴルフや麻雀で常に成果を上げないと機嫌が悪いので、ここはたぶん関係する人には嫌われていたと私は推測しています。いよいよこの時期、美原町と堺市の合併が現実のものとなり、「堺市美原町合併協議会」の有力委員として大活躍されました。



第8代 高島 正一
自:平成15年5月
至:平成17年5月

その後を引き継がれたのが第9代目の理事長笠井文雄氏。初めて木材畑ではない理事長の登場です。この方も皆さん御承知のように、口八丁手八丁しゃべり出したら止まらない演説の名人。懸案の道路移管及び公共下水道化問題を軌道に乗せ、堺市との交流と折衝を一段と深められました。



第9代 笠井 文雄
自:平成17年5月
至:平成19年5月

次を引き継がれたのが、山谷吉良第10代理事長、同じく木を扱う業者ではありますが、同業異業種ともいえる家具界からの登場です。今までとは異なる視点からの一味違った方針が次々と出され、協同組合は一段と活性化しました。多すぎる委員会の整理淘汰、若手を理事に積極的に登用、「理事会」が一段と若返りました。毎年秋に行われる全員例会もスマートなものになりました。創立45周年を皆で祝い、「2008年中期ビジョン」の策定もなされました。味にうるさくグルメですから、みんなその恩恵でおいしいものにありつけました。



第10代 山谷 吉良
自:平成19年5月
至:平成23年5月

そして真打、浦本雅史第11代理事長の登場です。温厚で謙虚、人柄の良さを彷彿とさせる新理事長です。副理事長に異業種の方々を積極的に登用、「総務・経営委員会」、「理事会」が一段と活発になる予感がします。



第11代 浦本 雅史
自:平成23年5月
至:現在